

竹内紀吉先生を偲んで

お別れのことは

前事務局 居石 幸子



平成17年8月23日、私立短期大学図書館協議会会長の竹内紀吉先生が脳腫瘍のため、65歳という若さでご逝去されました。8月25日に先生のお別れ式に会計担当であった相模女子大学の馬場さんと参列し、先生とお別れをすることができました。この日はちょうど台風11号が関東に接近し、千葉県内は午後から夜にかけて断続的な雨に見舞われましたが、式場は参列者で溢れ、改めて先生の交際の広さを伺い知ることができました。

平成17年3月11日に関東甲信越地区の幹事会があった時はとても元気でしたが、4月15日千葉経済大学総合図書館の古賀さんから、竹内先生が聖路加病院に検査入院しており、協議会の会長を辞したいと連絡がありました。総会を前にして竹内先生不在の総会はどうなることかと不安で一杯でしたが、幹事他皆様のご協力により無事総会を執り行うことができました。

6月半ばに、先生のご自宅へ容態を尋ねたところ、お嬢様が電話に出られ、「聖路加を退院し、

しばらくして体調が崩れ千葉県循環器センターに再入院し、現在は自宅で療養しています。」とのことでした。そして、8月24日石川さんから竹内先生の訃報の連絡が入りました。あまりの突如な報に、驚きと深い悲しみで一杯になりました。

先生は、本部長の任に平成13年から平成16年まで2期4年間就かれましたが、「短期大学図書館運営が極めて厳しい状況に置かれているからこそ、組織の重要性が問われている」と、協議会を見直すため、アンケートを実施し改革点を見出しました。また、創立25周年記念事業として、全国7支部において『青年期をどう生きたか ― 一冊の本との出会い ―』を共通テーマに講演会を実施し、これを文章に起こし『創立25周年記念講演録』を出版しました。この講演録は、日本図書館協会の選定図書に選ばれるなど先生の功績は私短図協にとって大変大きいものとなりました。

間もなく、創立30周年の記念の年を迎えるについても、「ここ数年毎年2桁の退会館が出ており、短大図書館は大変厳しい状況に置かれているが、だからこそ全国的な組織を絶やすことなく、節目節目をしっかりと刻むことによって短大図書館というものを図書館界に大きく印象づけていかなければならない。」と30周年記念に向けてのお考えを述べられていました。創立30周年記念の式典に、先生が出席できないことはとても残念に思いますが、先生の意思を引き継ぎ組織の継続・発展に尽くさなければならないと思います。

先生は、浦安の図書館長としてご活躍し大変有名でしたが、先生と最初にお会いしたのは、千葉県図書館情報ネットワーク協議会が平成6年に設立され、先生が会長に就任されたときでした。まさか私短図協で先生にお世話になるとは思っても

いませんでした。先生は、60歳になってからオートバイの免許を取得し、那須の別荘まで出かけたがり、北海道を周ったり、時間ができたらフランスも一周したいと言っておられました。私の大学にもオートバイでいらっしやいました。そのときの、先生の若々しいヘルメット姿がとても印象に残っ

ています。那須の別荘に馬場さんと遊びに行く予定でしたが、台風でそのチャンスを失ってしまったことは今になって大変悔やまれます。

心から先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(本部役員 敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター)

竹内先生のこと

馬場 敏子

私が初めて竹内先生にお目にかかったのは、私立短期大学図書館協議会の次期役員校の順番が本学にも回ってきて、新旧の引継ぎや担当業務などを決める会議に参加したときのことである。竹内先生のお名前は「浦安図書館を作られた方」ということで存じ上げてはいたが、お会いするのはその時が初めてであった。

役員は2年任期で交代しているが、会長はどなたにお願いすることになるのだろうか？なかなか決まらないだろうと考えていた。次期役員としては、じっとその場の雰囲気を見守っていたという記憶がある。竹内先生からは、「短大図書館や私立短期大学図書館協議会をより良いものにしていかなくてはいけない。加盟館数が減ってきているこんな厳しい時だからこそ頑張らなければいけない。」という話と共に熱意が伝わって来た。その時の先生は、こう言っては失礼かもしれないが、笑顔に何ともいえない愛嬌があり、時たま少年のような表情をされる方だという印象であった。竹内先生に引き続き会長をお願いできれば一番良いのにと考えた。新役員としては、前期のことを知っている人が多いほど心強く、それが会長であ

ればなおさらである。次期役員は引継ぎが完了したといっても全体像が判然としない状態にあったように思う。そんな中で「会長はどなたに？」という発言に、私は思わず「竹内先生に引き続きお願いできないでしょうか？竹内先生は短大図書館協議会のイメージキャラクターみたいなものだから・・・。」と言ってしまった。この表現が功を奏したとは思わないが、竹内先生に再度会長をお引き受けいただけることになった。ただ、私はこのときの言葉を思い出すたびに冷や汗をかくことになってしまった。

平成17・18年度は、「30周年記念事業が終わるまでは・・・。」と、会長を竹内先生に快く引き受けていただき、あとは総会を待たばかりという状況のなかで、ご病気のため会長を辞退されたという連絡があったが、お見舞いに伺う間もなく他界されてしまった。私の中では、いまだに「イメージキャラクター」と申し上げたときにこやかなお顔が思い出される。ただただご冥福をお祈りするばかりである。

(本部役員 相模女子大学短期大学部附属図書館)



全国研修会を終えた翌朝、バイクツーリングの旅人となる

一枚の葉書き

我孫子 晴美

私の手元に一枚の葉書きがある。表書きには差し出し人の住所と氏名を刻した朱色の判。千葉の自宅住所に並んで「竹内紀吉」とある。最後の「吉」の字はかすれていて、朱色のボールペンで手書きされた跡がある。裏面の本文には「緊急入院の生活を送っていたために、49号と50号をつい先日拝見した次第です。」と丁重にしたためられている。

平成13年から14年までの二年間、私の勤める図書館は私短図協の地区会長館となり、全国の会報を担当することになった。葉書きはその間に受け取ったものである。会の関係書類を郵送する際、竹内会長は勤務先の大学宛ではなく、ご自宅へ直接郵送されるようにと指示されていた。仕事で大学を離れることもあり、自宅の方が確実に受け取ることができるという理由からだった。細かな気遣いをされる方だったと改めて思う。

葉書きを受け取ったとき、「緊急入院」という言葉にまず驚いたのを覚えている。その少し前に東京で私短図協事務局の業務担当者会議があり、会長を交えて和やかに歓談したばかりだったからだ。会議終了後の情報交換会では、浦安図書館で

のさまざまなエピソードをはじめとして、バイクに乗ってヨーロッパを旅行するというご自身の趣味についてを楽しそうにお話されていた。緊張していた場が瞬時にほぐれた。そのときの青年のように輝いていた表情や声を昨日のこのように思い出す。

打って変わって、翌年の全国研修会でお会いしたときは、健康そのものだった顔が一回り小さくなっていて。緊急入院という言葉が現実のものとして感じられた。それでも挨拶に立つ竹内会長は、以前と変わらず、私立短大図書館の将来を憂いながらも、私たち会員にいつも前向きであれと励ましの言葉を投げかけてくださったのだった。

せっかく間近でお話できる機会がありながら、生来の引っ込み思案な性格から思うようにお話できなかつたことがいまさらながら悔やまれる。しかし会長が遺した精神は私短図協の中にこれからも生き続けるであろう。そうすることがまた、私たち会員に託された使命のように思われる。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

(北海道地区 札幌大谷短期大学図書館)

竹内会長のこと

池口 明希子

竹内紀吉会長と初めてお会いしたのは、当館が地区理事館を務めることになった平成14年のことでした。

初めての理事館業務、加えて初めての全国業務担当を控え、不安で一杯の私に、気さくに話し掛けてくださった竹内会長の笑顔が、いまでも忘れられません。

理事館を2年、会報担当を2年、トータル3年間協議会の中核に関わり、行事に参加しつづけた中で強く感じたことが、竹内会長のお人柄の素晴らしさです。

会議の席上では、時に対立、時に思わぬトラブルに見舞われることがあります。どんなときでも会長は、対立した双方の意見や私たちの言葉に熱心に耳を傾け、トラブルの原因を見つけては解決策を提示しながら、協議会や会議がよりよいものになるよう、取り計らってくださっていました。竹内会長の柔軟な姿勢に、私たちはいつも安心感

を抱きながら会議に臨んでいました。

また、その気さくなお人柄も魅力のひとつでした。豊富な知識をお持ちで、とてもアクティブな会長のこと、お話はとても興味深いものばかりでしたし、何よりとても楽しそうにそれらを話してくださいしている会長の笑顔を見ていると、こちらも幸せな気持ちになりました。

これからもまだまだ教えていただきたいことが山のようにありましたが、本当に急なことで、何と申して良いか、今でもわかりません。お別れの会で、ホールに入りきれないほど沢山の方々に囲まれた遺影を拝見し、会長の残したものを受け継いでいけたら、との思いを強くしました。

今はただ、いつもお忙しそうだった竹内会長が、ゆっくりお休みになられますよう、心より願っております。

(東北地区 聖和学園短期大学図書館)

夢の数々

山上 良子

私立短期大学図書館協議会関東甲信越地区協議会幹事、日本図書館協会短大・高専部会幹事として竹内先生の下で諸活動に携わりお人柄にも触れてきた者として、その訃報に接しませんでしたことは、巨木を失う心許なさや寂寥にもまして“絶たれてしまった先生の夢”に対する無念の思いでした。

日頃竹内先生はたくさんの夢をお持ちでした。図書館人として、作家として、そして家庭人としての夢。それらの夢を問わず語りにお話くださる時の先生は、とても大先輩とは思えないほど、希望に胸を膨らませていらしたことが思い返されます。「こんど小説を出版しようと思っています。完成したら差し上げますよ」「木を植えて庭をこつこつと作っています。僕はこう見えてもけっこう器用ですし、嫌いじゃないんですよ」などと、おおらかに交わした会話も耳朶によみがえります。

図書館人としてのご活躍は周知のことですが、今年の3月「図書館の状況が段々悪くなるので心

配をしています」と、珍しく疲弊の色を見せられたことがありました。長きに亘り図書館界に身を置かれ、日本の図書館の歴史も将来も展望できるお立場であればこそ、将来の事態を憂慮されておいでと拝察をいたしました。図書館を理不尽な外圧から守るということは先生の図書館人としての一貫した姿勢でした。

しかし、竹内先生に対する独断と偏見を述べるのが許されるのであるならば、竹内先生は“作家の質”の方であったように思います。人・物や自然に対する感動の強さ、些細なことに動じない鷹揚さ、そして少しばかり逸脱した時間の感覚。組織人よりは自由人が似合っていました。

還暦を迎えてから取得に挑戦をなさったというオートバイの免許で、仏蘭西の田舎道をひた走ったことを楽しげに語っていらしたことが昨日のことのようです。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(関東・甲信越地区 目白大学新宿図書館)

学生の頃

山形 容子

自分が学生だった頃、竹内先生が館長をしていらしかった浦安市はディズニーランドと図書館の町としてあまりにも有名でした。公共図書館についての大学の講義では浦安市立図書館のサービスのすばらしさや貸出の実績などすぐれた公共図書館のモデルとしてよく紹介されていました。ある時、同級生の間で浦安市立図書館へ見学に行ってみようということになり世話好きの友人が大学の先生を通じて見学を申し込み同級生15人ほどでうかがったことがありました。

竹内館長は、ご多忙の中、見学に来た私たちに浦安市立図書館を立ち上げた際のエピソードなどをお話くださいました。利用者の幸せを願う高い理想とそれを現実にするためのチャレンジ精神が学生にも熱く伝わりました。竹内先生はその後、他の用事でお出かけになり、中堅の男性が図書館を案内してくださいました。図書館員の方々をま

ぶしく感じたことや、広々とした明るく居心地のよさそうな空間、カウンターの配置などを懐かしく思い出します。

この見学に刺激を受けて当時はどこかに出かけるときにはその町の図書館に立ち寄るように心がけたりしておりました。よりよい図書館や図書館員のあり方を深めるため自分なりに真摯な気持ちで取り組んでいた学生の頃を思い出します。

こうした影響を受けたのは私だけではなかったことと思います。竹内先生に接した多くの人々が何らかの勇気をいただいたことと思います。

竹内先生がお亡くなりになり、たいへん残念に思います。けれども竹内先生の精神は日本全国の図書館や図書館員の中に生き続けると確信いたします。

(東海・北陸地区 愛知江南短期大学附属図書館)

書かれなかった巻頭論文

東條 文規

竹内紀吉会長の訃報に接したのは、8月23日の夕方、順正短大の守屋さんからの電話であった。まさかとは思っていたが、あまりにも早い悲報に驚いた。というのも、春先に先生のご自宅にお電話したとき、奥さまの控え目な語り口のなかに、先生のご病状の深刻さが窺えたような気がしたからで、要件も話せず、「お大事に」と申し上げて電話を切った。

じつは、私が編集委員をしている『ず・ぼん』（ポット出版）に、原稿をお願いしていたので、その催促に電話を差上げたのである。

竹内先生は、よく知られているように、浦安の図書館の新設時からかわられ、そのご活躍ぶりは、『図書館の街浦安—新任館長奮戦記—』（未来社、1985）、『浦安の図書館と共に』（未来社、1989）に詳しい。私も、竹内先生の名を知ったのは、これらの本によってであり、10数年前に見学させてもらった。

その後、私立短期大学図書館協議会の会長に就任され、何度かお会いし、懇親会の席でも、好きな酒をご一緒した。先生の発案で、協議会創立25周年記念事業が企画され、2002年には全国7支

部が共通テーマ「青年期をどう生きたか——冊の本との出会い——」というテーマで講演会を開催した。私の所属する中・四国地区では、図書館建築の第一人者鬼頭梓先生にお願いしたが、竹内先生は、「すばらしい方をよんだ」とたいへん喜んで下さった。（これらの講演録は、同名で一冊の本にまとめられている）。

去年（2004年）の全国図書館大会でも、開催地の香川県に来て下さり、短大分科会の後の懇親会でも楽しいお酒をご一緒し、先の『ず・ぼん』の原稿を半分酒の勢いでお願いし、先生もまた、「書きましょう。販売も協力するよ。」とおっしゃって下さった。中身は、鈴木康之、坪井賢一『浦安図書館を支える人びと』（日本図書館協会、2005）の先生のインタビュー部分を、もっと深く掘り下げたものになるはずであった。回復され、次号の巻頭論文にと、期待していたのだが、その機会は永久に失われてしまった。先生のご冥福をお祈りするのみである。

（中国・四国地区 四国学院大学・短期大学図書館）

竹内先生を偲んで

梅野 智美

私と竹内先生との出会いは、今から4年前の平成13年、私立短期大学図書館全国研修会（以下、研修会）の時でした。どこかで聞いた名前とは思いますがすぐには思い出せず、研修から帰宅後図書館で検索したことを覚えています。

次にお会いしたのは平成14年度の研修会の時でした。当時、次回開催地区が九州地区の予定だったため、どのような内容がいいのか先生にご相談に伺った時のことでした。「今日の研修会がとても良かったので、第二弾を是非九州でして欲しい」というお言葉を頂きました。

研修会の準備等は大変でしたが皆様のご協力のお陰で無事に終わることができました。参加者の方々からは、「有意義な研修会でした。」とのご意見に感極まる思いでした。のちに先生も「九州地区で開催された全国研修会は、私がこれまで経験してきた全国大会の中で、最も印象に残る研修会であり、多大な成果があげられたと思っている」

（会報55号）と述べられています。本当に嬉しい限りでした。

先生との思い出で強く印象に残っていることがあります。それは、平成16年度の全国図書館大会第4分科会で事例発表をする直前のことでした。「僕は発表するときは、原稿なんか書かないし、書いたのを読んでいたら発表にならない」とおっしゃいました。とはいえ、私は緊張する性格なので、原稿はしっかり書いていましたし、勿論本番も原稿を読みながら、先生のお顔を何度もチラチラ見ながらの発表でした。後に先生にあわせる顔がなかったのでとても神妙な気持ちでお会いしたところ、先生から「明日、大会が終わったら食事でもしましょうか」とのお誘いを受け思わず自分の耳を疑いました。

閉会式の日、式の閉会を待っていたら新幹線に乗り遅れることがわかり、途中で抜けることをメモに書き受付の方をお願いして私は会場を後にし

ました。私が駅に着くと、偶然にもそこに先生のお姿がありました。本当に驚きました。それから私たちは時間の許す限りいろいろなお話をしました。有名な民俗学者の宮本常一の足跡をたずねて日本各地をバイクでツーリングしたかったからバイクに乗り始めた話等々。その後1年も経たないうちにお亡くなりになりました。あんなにお元気だっ

た先生が今でも信じられません。

これからは、先生から教わったことを仕事に生かすことがせめてもの恩返しになると思い日々の仕事に取り組んでいます。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(九州地区 九州大谷短期大学図書館)



今でも私は、人生が非現実的な様相を呈している場所を特に愛する……。そこから二歩もへだたれば、人生はわれわれが知りすぎている姿にかえるのだが、その、探しかけた場所だけは夢に通じる妖気をおびている。しかも、その魅力は、それが完全に人生でないといじょう、実は、夢でもないところから来ているのだ。

『今ひとつの眠り』ジュリアン・グリーン著

鈴木健郎訳 角川文庫 1967 p.42 訳文のまま



事務局報告

<会勢> 平成17年12月21日現在
北海道14 東北18 関東・甲信越77 東海・北
陸27 近畿50 中国・四国21 九州25
合計232館

<退会館> 平成18年3月末退会
桜美林大学図書館（関東・甲信越地区）
東大阪大学・東大阪大学短期大学部附属図書館
（近畿地区）
奈良芸術短期大学図書館（近畿地区）
土佐女子短期大学図書館（中国・四国地区）
帝京大学福岡短期大学附属図書館（九州地区）
筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館（九州
地区）

<会議>

平成17年度業務担当者連絡会議
日 時：平成17年12月15日(木)～16日(金)
場 所：東京ガーデンパレス
出席者：石川博丈 本部事務局
（千葉経済大学総合図書館）
古澤義弘 本部会計
（聖徳大学川並記念図書館）
木村修一 会報担当（平成17・18年度）
（北海道武蔵女子短期大学図書館）
守屋明子 紀要担当（平成17年度）
（順正短期大学図書館）
藤本昌司 紀要担当（平成18年度）
（松山短期大学図書館）
菅井敏子 研修担当（平成18年度）
（白梅学園大学・白梅学園短期大学図書館）

- 議 事：1. 出席者自己紹介
2. 報告事項
①会勢
②平成17年度中間会計報告
3. 協議事項
①会報について
②紀要について
③全国研修会について
④その他

紀要について、原稿募集要項と執筆要項を一
部修正し、第25号より掲載することになった。
また、価格については担当館が価格決定資料を

持参し、紀伊國屋書店と打ち合わせのうえ、定
価6,090円（税込み・CD-ROM付録）で取扱い
部数は80部に決定した。

平成18年度全国研修会について、平成18年9
月7日(木)・8日(金)に東京ガーデンパレスで
開催されることが報告された。

<今後の予定>

平成18年度理事会および総会
開催予定：平成18年5月中旬
会場予定：第二丸善ビル

<本部役員会記録>

この会議は、関東・甲信越地区協議会幹事会
と同日開催。

- 第1回 平成17年5月20日(金)
会場：第二丸善ビル第2会議室
第2回 平成17年7月8日(金)
会場：鶴見大学会議室
第3回 平成17年10月14日(金)
会場：鶴見大学・大学会館研修室
第4回 平成17年11月15日(火)
会場：東京女子体育大学
第5回 平成18年1月17日(火)（予定）
会場：東京ガーデンパレス



地区活動報告

<北海道地区>

第48回(平成17年度)北海道地区大学図書館職員研究集会

今年度は短大のみの研修会は行わず、「北海道
地区大学図書館職員研究集会」にオブザーバーと
して参加した。開催日時等の詳細は以下のとおり
である。

日時：平成17年8月19日(金)
場所：藤女子大学
参加：8館15名(加盟館分)

訂正とお詫び

会報第57号 p.6
見出し

誤 正
事業局報告 → 事務局報告

訂正してお詫び致します。

内容

- ①講演「個人情報保護法と大学図書館」
新保史生氏（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科助教授）
- ②講演「受ける側から見たアウトソーシングの現状と問題点」
保科恵美子氏（日本アスペクトコア(株)ライブラリーサービス営業部長）
- ③事例報告「個人情報保護法対策の現状」
西向仁史氏（北海道医療大学学術情報センター）
川邊蓉子氏（藤大学図書館）

両講演とも現時点で図書館が直面するタイムリーなテーマについてのものであり、今後の取り組みに示唆を与えてくれる内容であった。事例報告の後には8つの分科会にわかれて交流会が行われ、参加者それぞれが日ごろの業務で関心のあるテーマについて、意見を交わした。

また、研究集会終了後に加盟館のみの情報交換会を設け、各館の現状や私短協北海道地区の今後のあり方などを話し合うなどして、親睦を深めた。

<東北地区>

平成17年度 東北地区協議会総会・研修会

日時 平成17年10月21日(金)13:00~16:25
場所 ホテル辰巳屋 8階 琥珀の間
出席者 15館 19名

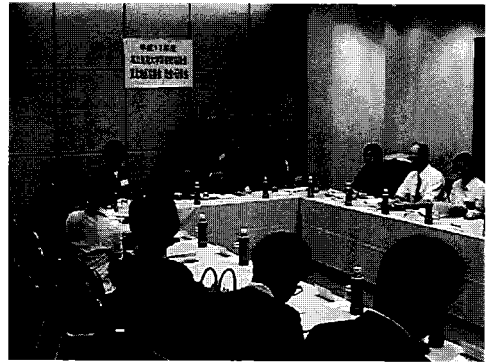
1. 総会

- 議題：①平成16年度活動報告
②平成16年度決算報告
③平成16年度監査報告
④平成17年度事業計画・予算
⑤平成17年度全国理事会報告
⑥その他

2. 研修会

- 討議事項：①資料の除籍について（手続きと処理法）
②情報リテラシー教育と利用者指導
③館内での利用者マナー指導について
④図書の選書について
⑤法改正等により改訂される資料の入れ替えについて
⑥大学評価に含まれる図書館に関する評価事項

昨年に引き続き、各加盟館から提出された議題について討論会を行った。①②は、昨年時間切れ



平成17年度東北地区協議会総会にて

で討議できなかった繰り越し議題である。

研修会に先立ち、議題内容について加盟館に事前にアンケートを行った。アンケート資料を参考に、各加盟館のより身近な問題を活発に議論した。

平成17年度 東北地区協議会見学会

日時 平成17年10月21日(金)16:30~17:30
場所 こむこむ館（福島市子どもの夢を育む施設）

参加者 15館 20名

「こむこむ館」は、福島駅東口に平成17年7月23日オープンした福島市子どもの夢を育む施設である。2万冊の児童書を備える子どもライブラリー（福島市立図書館分室）をはじめ、交流コーナー、ワークショップ室、プラネタリウム、展示室等がある。

係員の説明を受けながら、各フロアにあるさまざまな設備を体験、見学した。

<関東・甲信越地区>

1. 会勢（平成17年度12月1日現在）77館

2. 幹事会

○ 平成17年度 第2回幹事会

日時：平成17年7月8日(金)

場所：鶴見大学3階会議室

議事：①私立短期大学図書館協議会・関東甲信越地区協議会、会長選出について

②平成17年度研修会について

○ 平成17年度 第3回幹事会

日時：平成17年10月14日(金)

場所：鶴見大学・大会館2階研修室

議事：①私立短期大学図書館協議会・関東甲信越地区協議会、会長選出について

②平成18・19年度担当幹事館決定報



関東・甲信越地区研修会にて

告と業務引継について

○ 平成17年度 第4回合同幹事会

日時：平成17年11月15日(火)

場所：東京女子体育大学

議事：①私立短期大学図書館協議会・関東甲信越地区協議会、会長委嘱について

②平成18・19年度担当幹事館業務役割分担

③平成18年度全国研修会(案)について

3. 会報39号の発行

平成17年9月20日刊 総会報告、研修会開催案内

4. 研修会の開催

日時：平成17年10月14日(金)

場所：鶴見大学・大会館3階第2会議室

テーマ：「個人情報保護法と図書館」

講師：岩佐富男氏(足利短期大学教授)
森 智彦氏(東横学園女子短期大学教授)

参加者：37名(内2名は非加盟館からの参加)

5. その他

①入会の勧誘

非加盟館63館に対して「会報39号」「研修会のご案内」を送付して、入会勧誘をおこなった。現在1校入会検討中

②2006年度私立短期大学図書館全国研修会

日程：2006年9月7日(木)・8日(金)
(予定)

会場：東京ガーデンパレス(予定)

(テーマ等詳細は、7月の全国会報でご案内いたします)

<東海・北陸地区>

1. 平成17年度第2回幹事会

日時：平成17年7月14日(木)
13:00~16:00

場所：敦賀短期大学

出席：6館9名

議題：①全国理事会、全国総会報告
②平成17年度総大会・研修会実施(案)について
③会長校・幹事の輪番について
④その他

・平成20年度全国研修会について

2. 平成17年度総大会・情報交換会・研修会

《総大会》

日時：平成17年8月30日(火)13:30~16:50

場所：ウェルサンピア敦賀

出席：18館25名(委任状提出館：9館)

《総会》

議題：①東海・北陸地区加盟館の現状

②平成17年度役員紹介

③平成16年度事業報告

④平成16年度決算報告

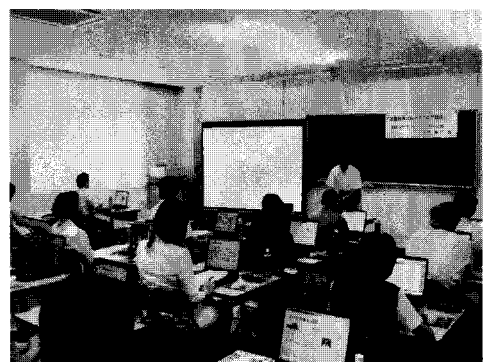
⑤監査報告

⑥平成17年度事業計画(案)について

⑦平成17年度収支予算(案)について

⑧会長校輪番について

⑨東海・北陸地区図書館協議会内規の改正について



東海・北陸地区平成17年度研修会

8月31日「図書館員のためのブログ作成講座」と題し、講師に㈱エヌ・ティ・ティ マーケティング アクト北陸の福地伸二氏をお招きしてライブドアのブログサービスを利用して実際にブログを作成しました。ブログは、更新が簡単に携帯からもアクセス可能なので図書館のホームページの代わりとして、また広報手段としても活用できます。参加された方は、ブログ作成が初めての方が多く、皆さん熱心に取り組んでいました。

- ⑩地区幹事輪番について
- ⑪平成18年度会長校および地区幹事校の確認
- ⑫全国研修会について
- ⑬その他
 - ・地区会報誌の廃止について
 - ・加盟館職員名簿の変更について
- ⑭平成18年度会長校挨拶 [東海女子大学・東海女子短期大学]

〈講演会〉

「大学図書館の公開 ―小春日和からの出発―
福井県立大学における地域貢献」

講 師：三嶋善之氏

(福井県立大学情報センター総括司書)

《情報交換会》

日 時：平成17年8月30日(火)17:20～19:00

場 所：ウェルサンピア敦賀

出 席：16館22名

《研修会》

日 時：平成17年8月31日(水)9:20～15:00

場 所：敦賀短期大学

出 席：16館22名

内 容：図書館員のためのブログ作成講座

講 師：福地伸二氏 (株)エヌ・ティ・ティ マーケティング アクト北陸)

見 学：気比神宮

3. 平成17年度第3回幹事会

日 時：平成17年12月1日(木)11:00～14:00

場 所：敦賀短期大学

出 席：7館9名

議 題：①平成17年度総大会・研修会反省について

②平成18年度総大会・研修会実施(案)について

③平成18年度幹事館について

④平成20年度全国研修会準備委員会(仮称)について

⑤その他

〈近畿地区〉

1. 研修会

①平成17年度第1回

日 時：平成17年5月10日(火)

14:45～17:00

場 所：関西外国語大学図書館学術情報センター 遠隔授業教室

講 演：「京ことば・大阪ことば」

講 師：堀井令以知(関西外国語大学教授)



近畿地区第1回研修会にて

見学会：関西外国語大学図書館学術情報センター

参加者：28館38名

②平成17年度第2回

日 時：平成17年10月13日(木)

13:00～16:30

場 所：国立民族学博物館図書室見学と展示室見学

参加者：14館15名

③平成17年度第3回

日 時：平成17年12月9日(金)

13:00～17:00

場 所：相愛大学・相愛女子短期大学図書館視聴覚教室

講 師：「GENの会」朗読劇

書誌作成発表 藤津滋生(関西外国語大学)、野口恒雄(佛教大学)

参加者：14館18名

2. 幹事会

①平成17年度第1回

日 時：平成17年6月8日(水)

12:00～14:00

場 所：関西外国語大学図書館学術情報センター

議 題：引継ぎ

②平成17年度第2回

日 時：平成17年7月26日(火)

14:00～17:00

場 所：相愛学園本町学舎

議 題：平成16年度第2回研修会について

国立民族学博物館図書室の見学の打合せ

③平成17年度第3回

日 時：平成17年9月12日(月)

場 所：相愛大学・相愛女子短期大学図書館

視聴覚教室

議 題：平成17年度第3回研修会について
「GENの会」担当者との会場の下見と
打合せ

④平成17年度第4回

日 時：平成17年12月9日(金)
9：30～12：00

場 所：相愛大学・相愛女子短期大学図書館
議 題：平成17年度第3回研修会について
(幹事、講師の先生方との最終打合
せ)

<中国・四国地区>

1. 2005(平成17)年度地区協議会第1回役員会開催

日 時：平成17年6月10日(金)
13：00～16：10

場 所：順正短期大学10号館2階

出席者：役員館3館3名

議 題：①2005(平成17)年度全国理事会・総会
の報告について

②2005(平成17)年度事業計画(案)について

③2005(平成17)年度予算(案)について

④2005(平成17)年度地区協議会「総会・研修
会の実施要項」(案)について

2. 2005(平成17)年度地区協議会第2回役員会開催

日 時：平成17年8月1日(月)
18：00～21：00

場 所：ホテルサンルート奈良

出席者：役員館3館7名

議 題：①総会・研修会開催の最終確認
②その他

3. 第20回2005(平成17)年度地区協議会総会・研修会

日 時：平成17年8月2日(火)～3日(水)

場 所：ホテルサンルート奈良

参加者：12館16名(委任状提出館8館、当日
欠席1館)

日 程：

(1)総会：8月2日(火)13：30～14：30

議事に入る前に、議長より、今年6月に行われた全国理事会・総会の報告(概要)があった。

①竹内会長が体調不良により会長を辞任。後任は未定。

②今年度から特色ある地区活動に対して助成金が支給されることになり、本協

議会へ研修会で使用するバス貸し切り料10万円を給付することが認められた。

③私短協ホームページを立ち上げる計画が進められており、準備費用が予算化された。

④他地区の研修会に参加してもよいことが承認された。参加する際はその地区の要項に従う。

今回、北海道地区から1名参加申し込みがあったが、総会にも参加希望されているため、その可否と参加費をどうするか2点について審議したい旨提議された。協議の結果、オブザーバーとして参加すること、会員参加費の半額(見学の際の拝観料を含む)を徴収することに決まった。他地区からの参加者受け入れについては申し合わせ事項にとどめることにした。

1)会務報告

①2004(平成16)年度事業報告・会計報告

②2004(平成16)年度監査報告

③2005(平成17)年度事業計画(案)について

④2005(平成17)年度予算(案)について

⑤「会報」について

⑥2005(平成17)年度全国理事会・総会の報告

2)協議事項

特になし

3)承合事項

①個人情報の取り組みの実情

②第三者評価に関する取り組みの実情

4)その他

①「短期大学図書館研究第25号」の進捗状況の報告

②次期役員について



研修会・井上真琴氏講演

ローテーションにより、18・19年度は愛媛地区が担当であり、地区内で検討された原案通り承認された。

会長館：松山短期大学図書館

幹事館：聖カタリナ大学短期大学部図書館

監査館：松山東雲短期大学図書館

(2) 研修会

8月2日(火) 10:00～12:00

天理大学附属図書館、天理参考館見学

8月2日(火) 14:45～16:30

講演

テーマ：「訊かれる」図書館になるために
—私の実践的資料利用論—

講師：井上真琴(同志社大学図書館)

8月3日(水) 10:00～12:00

国立国会図書館関西館見学

8月3日(水) 12:30～

奈良国立博物館見学の後自由解散

4. 「私短図中・四協ニュース」発行

第27号 平成17年10月25日発行、加盟館配布

<九州地区>

平成17年度 夏期研修会

期 日：平成17年8月9日(火)

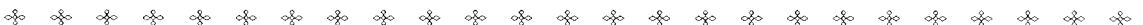
会 場：佐賀県立女性センター・生涯学習セン



《 編集後記 》

■全国研修会が隔年開催に変更されたことで、恒例であった2月号の研修会報告はお休みです。編集に携わってまだ一年、慣れぬままに次号の企画を思案していた、そんな時です。訃報が届きました。思いがけず竹内会長の追悼文を特集することになり、会長を偲んで本部役員や各地区より8名の方々に思い出やお別れのことばをご寄稿いただきました。感謝申し上げます。

■竹内先生のバイク姿の写真は聖和学園短期大学、池口明希子氏からの提供です。この二輪で日本の各地を旅したのですね。車道を駆けるうしろ姿から、先生の想いを運ぶ風の余韻を感じるのには私だけでしょうか。フランスの作家、ジュリアン・グリーンの『今ひとつの眠り』に出てくるフレーズ(Phrases)を写真下に添えさせていただきます。仏文専攻に向かわせたのはグリーンであったと、御著書『図書館のある暮らし』(未来社、1990)で引用された箇所でもあります。



ター(通称「アバンセ」 佐賀市)

テーマ：講演「情報と図書館」

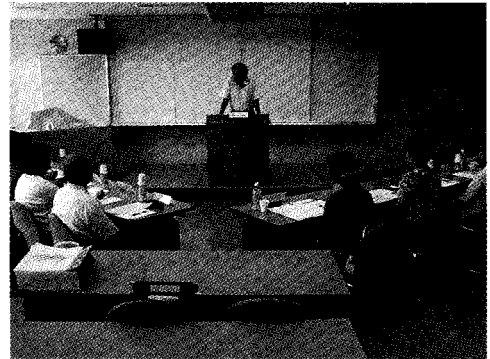
見学「佐賀市立図書館」

報告：総会、ニューズレター、名簿について
参加館：8館12名

研修内容：印刷メディアと、電子メディアの相違、長所短所による使い分け。

情報の素早いキャッチ⇒利益が大

見学内容：「佐賀市立図書館」は利用者の多いことで全国的に有名であるが、その運営は大学図書館としても学ぶこと大であった。



九州地区夏期研修会にて

■札幌市立中央図書館の原則無休と利用時間延長のニュースが年明けの5日の北海道新聞一面を飾りました。必要となる人員は4月からの指定管理者制度で浮いた区民センター図書室の職員を中央図書館に配置換えして対応するとしています。

■竹内先生は浦安市立中央図書館の館長としてご活躍のころ、北海道図書館大会の席上で、開館時間の延長や祝日開館が住民サービスにつながるという発想の危うさを指摘されました。欠けてはいけないものがある。住民への質的サービスを考えるべきだ。図書館は危機的な状況であると警告されました。そのときから20年。いよいよ厳しくなっていく図書館。『言葉の中継者』であるという、そういう自覚がなければいい本なんて選べない。」とも言われました。個性に満ちた図書館員でありつづけることが図書館運営の質を高めることを我々は自覚したい。竹内先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(木村)